

活動企画書

作成日：令和5年5月20日

校名： 発達こどもアカデミー美しが丘校

企画者： 本田 隼斗

活動名：ブロックが何個か数えよう	
本活動の着目点	
*1 視空間認知が不十分で目で見ると同時に処理することが苦手な児童を対象にビジョントレーニングとして本活動を立案	
生活上の困り感/目的・趣旨(ねらい)	
《生活上の困り感》 ・探しているものが見つからない ・道路で車が通るはずなのにどのくらいのスピードで通るのか、どのくらいの奥行や距離感があるのかつかめない ・棚にランドセルや水筒など入れることが難しい	《目的・趣旨(ねらい)》 自閉スペクトラム症やADHD、学習障害など空間でとらえることが難しいことや認知機能の偏りなどが考えられる。形態や空間の認識の苦手さから正確な情報の収集や分析に失敗してしまい生活の困り感がみられたため視空間に焦点を当てたビジョントレーニングとして今回の活動を立案した。
活動の概要	
【場所】 各事業所 【日時・所要時間】 約10分～15分程度 【人数】 1～10人 【対象者】 数の概念が分かる5歳以上	【必要な道具】 ・用紙
活動の進め方	
① はじめの挨拶 ② 活動の内容説明・注意事項 ブロックが積み上げられている用紙を提示し児童らにその数を考えてもらいその後答え合わせを行う。皆の考えが出そろったまですぐに答えを言わないようにする。考えるのが難しい場合には職員がヒントを出したりする。長くても1分後には全員で答え合わせを行う。 ③ 職員によるお手本提示 職員が答えを実際に考え答えて児童らにお手本を見せる。 ④ 活動 ⑤ 活動の振り返り 頑張った児童や一生懸命参加してくれた児童をフォローする。	

活動企画書

⑥ おわりの挨拶

【役割】

A：進行（説明や全体をまとめる）

B：お手本（お手本として子どもの見本になる動きをする）

C：子どもの補佐（活動に取り組む子どもに付き添う）

スタッフの着目点

- ・ 答えをすぐに言わないように指示が通るか
- ・ 自分で考えて答えを伝える事が出来るか

活動を行う上での注意点

回答をすぐに言わないように注意する

予算

計 0 円

その他

*¹視空間認知…目から入った視覚の情報を処理し、空間の全体的なイメージをつかむための機能です。ものとの距離感や奥行き、文字や形を把握するときに使われます。